

マスターズのページ 青春の火は燃ゆ

強いぞ マスターズ・アスリート 各地域で世界新や日本新が誕生

秋の夜長の神無月。10月10日はスポーツの日だったが、マスターズ陸上は？ 1カ月ほど前の9月19日の敬老の日は台風14号が襲来、日本列島は大変だった。兵庫県のマスターズ陸上競技選手権は中止となり、400人近くのエントリーした人たちはがっかり。対照的に悪天候を免れた青森県では同県マスターズ陸上競技選手権のM90・4×100m、4×400m両リレーでクラス別世界新記録をマークし、湿っぽい空気を払拭した。

写真／齋藤衛さん、田中博男さん

青森M90チームが魅せた！ 4×100mR、4×400mRで 世界新樹立

健在なり、陸奥の90歳代ランナー！

敬老の日の9月19日、青森県弘前市の運動公園競技場で開かれた第36回青森マスターズ陸上競技選手権のM90・4×100m、4×400m両リレーでまたもM90クラスの青森チームが世界新記録をマークした。前回の両リレーでの世界新は、昨年樹立したものだ。

4×100mRは1分43秒69、4×400mRが9分56秒36だが、M90クラスのメンバーは6月にあった同県の県民スポーツレクリエーション祭のマスターズ陸上大会で非公認ではあったが、これらのタイムを上回るタイムを出し、自信を持って本番に備えた。

リーダーの田中博男さん（91歳・青森市）はじめ、5月から数回合同練習を行い、満を持していた。敬老の日の弘前地方は時折、太陽が雲間から顔を出し、風はなかった。「みんな普段どおりの体調だ、さあ、いこう！」と張り切って、それぞれの位置についた

カルテット。

先にスタートを切った4×100mRでは、敦賀又四郎さん（93歳・五所川原市）が1走で「良いスタートが切れた」。2走は工藤勇蔵さん（93歳・同市）、次走は三ツ谷光造さん（91歳・鯉ヶ沢町）に代わって新加入した三浦信夫さん（90歳・弘前市）。「緊張はしたものの、自分なりの走りでバトンをアンカーに渡せた」。

最終走者の田中さんはチームのリーダーらしい走りで行く。タイムは世界記録を10秒17縮める1分33秒52だった。「（会場からの大きな拍手に）皆さんの応援に感謝したい。世界新はメンバーの努力のたまものです」と田中さん。

4×400mRの走順は敦賀さん、工藤さん、3走は以前のメンバーの三ツ谷さんで、4走は田中さんだ。記録は9分23秒29と世界記録を33秒07更新するニューレコード。1走の敦賀さんは「4×100mRと同じく最高の走りができた」と満足げ。2走の工藤さんも「普段の走りができて良かった」。3走の三ツ谷さんは「100%の力を出

せなかった。次こそ満足する走りを」と次回に意欲をみせた。そして田中さんは「これに満足せず、さらなる記録を」。次はM95クラスでの記録である。

この田中さんはM90・100m16秒69（-0.6）、200m36秒02（+1.1）の世界記録を持っている。いずれにしても青森の長寿鉄人ランナーは“短命県あおもり”を返上した。

齋藤衛さん（85歳・群馬）が快挙 M85・走幅跳に3m83の世界新

9月11日、前橋市であった第38回群馬マスターズ陸上競技選手権のM85クラス走幅跳で3m83の世界新、日本新が誕生した。ヒーローは齋藤衛さん（85歳・群馬）だ。

競技が行われた日の天候は良好、しかも助走路に立った齋藤さんの背中を押すように、いい追い風に恵まれた。1回目の試技だった。齋藤さんの足がぴたりと踏切板をとらえた。空中に浮いて着地した地点が3m83（+1.1）だ。

1回目の試技で世界新を出し、張り切って2回目に！と思われた齋藤さんだが、2回目以後は跳んでいない。



M90・4×100mR、4×400mRで世界記録を更新した青森マスターズのみなさん。左写真は4×100mR（左から敦賀さん、工藤さん、三浦さん、田中さん）。右写真は4×400mR（左から敦賀さん、工藤さん、三ツ谷さん、田中さん）。

コロナ禍の影響で、万全な体調でなかったからだ。

齋藤さんが出した3m83は、3m77の世界記録を16年ぶりに破るもの。同時に世界記録と同記録の日本記録をも更新した。これより以前の7月3日、群馬・富岡マスターズ陸上記録会においても齋藤さんは、3m80を跳び、世界記録を破っていたのだ。実に立て続けに世界新をマークしたことになる。

齋藤さんは81歳の2018年、鳥取市での第39回全日本マスターズ大会のM80クラスの走幅跳で3m77でタイトルを取っている。では次年に群馬県で行われた第40回記念国際・全日本マスターズ大会では、どうだったのか。前回の実力者のことだから、さぞ“ご当地”開催に張り切っていたと思われるが、名前が見当たらなかった。

実は、齋藤さんに話を伺うと「私も地元開催だから『よ～し今年も』と張り切っていましたが、参加申し込みがウェブで、うかつにも締め切り日を見逃して」と苦笑い。

この齋藤さんがマスターズ陸上を始めたのは友人に勧められた、79歳から。だが、走りはじめると65kgの体重が脚に負荷をかけ過ぎて筋肉を痛めてしまった。そこで齋藤さんは1年がかりで脚だけでなく、筋力づくりに専念。現在は身長164cm、体重55kgと動きやすい体になっている。

高校時代に走幅跳をやっていたことで、マスターズでも同種目を始めた。走幅跳だけでなく、100mも何度か走ったことがある。齋藤さんが80歳になった17年の走幅跳のベストは3m68で全国ランクのM80クラス1位。



M85・走幅跳で、
新を樹立した齋藤さん
3m38の世界新&日本

2022全日本マスターズ 投てき五種選手権 クラス別日本記録樹立者

クラス	選手名	年齢/所属陸協	総得点	ハンマー投	砲丸投	円盤投	やり投	重量投
男子	M30 角田光洋	31 / 東京	①2814	43m04	11m05	35m35	40m52	14m07
	M80 山田博嗣	81 / 愛知	①3978	38m92	11m16	21m37	22m55	13m84
	M90 平田数秋	90 / 愛媛	①3037	17m96	6m32	12m64	18m96	7m48
	M90 中川幸吉	90 / 石川	②2703	15m71	6m45	13m07	16m45	5m78
クラス	選手名	年齢/所属陸協	総得点	ハンマー投	砲丸投	円盤投	やり投	重量投
女子	W25 富澤美香	28 / 千葉	①2269	39m45	7m63	26m53	25m19	8m67
	W60 高橋節子	62 / 千葉	①3644	30m12	8m58	27m05	23m27	11m60
	W85 福田外枝	85 / 石川	①2942	15m26	5m77	10m68	8m41	6m16

※ 丸中数字は順位

マスターズ陸上で走幅跳を始めたのが遅く、コロナ禍で大会が中止になるなど、海外でのイベントには未出場。マスターズ陸上の良さは「年齢のクラス別なので、同年代の人たちと交流しながら楽しくやれるところ」と絶賛する。また、健康に気を付けて筋力強化に努めていても「年齢が上がるにつれて、なぜ記録が下がっていくのか」という原理を探ってみたい、と意欲的だ。当然、マスターズ陸上の走幅跳にも情熱を燃やしている。

全日本投てき五種で好記録続出 7つの日本新が生まれる

7月30日に石川県の西部緑地公園競技場で行われた2022全日本マスターズ投てき五種選手権大会で男女7つの日本新が生まれた。

日本新樹立者の成績は別表の通りだが、M30クラスでは角田光洋さん（31歳・東京）が従来の日本記録2703点を上回る2814点で1位となった。

M80クラスではハンマー投で鳴らしている山田博嗣さん（81歳・愛知）が3653点を7年ぶりに更新する3978点で優勝した。

M90クラスは2人が日本新を出したうち、1位になった平田数秋さん（90歳・愛媛）が3037点、2位の中川幸吉さん（90歳・石川）は2703点だった。旧日本記録は2296点。

女子は富澤美香さん（28歳）、高橋節子さん（62歳・共に千葉）、福田外枝さん（85歳・石川）のみなさん。

赤堀弘晃さん（50歳・兵庫）が日本新 M50・200mに23秒10

本誌9月号でお知らせした2022世

界マスターズ陸上のM50・100mと200mで2種目Vを遂げた赤堀弘晃さん（50歳・兵庫）が、9月3日に大阪・服部緑地競技場であった第10回大阪マスターズ陸上競技大会のM50・200mで23秒10の日本新を出した。

当日は暑く、赤堀さんは「湿度が高かったのか、蒸し暑かった。私は『記録を狙おう』ではなく、練習のつもりでの気持ちで走りました」と話す。23秒10は従来の日本記録である23秒30を4年ぶりに破ったもの。

さらに約1カ月後の10月1日、大阪・ヤンマーフィールド長居競技場で行われた第36回大阪マスターズ陸上選手権のM50・400mHに高3ぶりに出場。M50クラスの日本記録58秒65を、0秒41縮める58秒24の日本新でフィニッシュした。

齋藤恵美子さん（91歳・東京） テニス大会で惜しくも決勝を棄権

10月号既報の齋藤恵美子さん（91歳・東京）は予定どおり、9月17、18日に兵庫県芦屋市で行われた『第60回芦屋グランドベテランテニス大会』に参加した。

全国から76組のシニア世代のテニスプレーヤーが熱戦を繰り広げ、齋藤さんのペアも順当に準決勝を突破。だが、肝心の決勝を前に齋藤さんが急に体調を崩し、棄権やむなしで連勝は8でストップした。

齋藤さんはマスターズ陸上のW85・60m、100m、200m、400mおよびW90・60m、100mに日本記録を持ち、8月7日にW90・200mに53秒35の世界新、日本新を樹立した。次回のレースが待たれる。